

労働の科学

Digest of Science of Labour

2020
March
Vol. 75, No. 3



特集

転倒・転落事故防止の意義と効果的対策

転倒・転落事故の実態と課題／永田久雄

全社挙げての転倒災害防止対策が支える来店者・従業員ともに安全・安心な百貨店づくり／松坂屋上野店

高齢労働者の転倒災害未然防止：安全に働ける身体づくり／川越 隆

転落防止対策に新体感・体験型安全教育の導入で労働者の危険感受性向上をはかる／萩原 淳

転倒、墜落・転落災害防止をビルメンテナンス業界の共通・共用の課題として／島田良雄

転倒・転落予防と医療の質・患者安全の確保／高橋静子

荒川ころばん体操 ご一緒にいかがですか？／尾本由美子

巻頭言

転倒・転落等公務災害を防止し、
消防活動向上を支える
職場環境の改善

中村義彰

労研アーカイブを読む⑤③

椎名和仁

「パラサイト 半地下の家族」

小林祥晃

Cinema

労働の科学

2020
March
Vol. 75, No. 3

巻頭言

俯瞰（ふかん）

転倒・転落等公務災害を防止し、
消防活動向上を支える職場環境の改善

1

中村 義彰 [越谷市消防職員協議会執行委員会]

作品 About Light : 高見 晴恵

素材 : コピー用紙

2008年12月9日～2009年2月15日

カルマール選抜展

カルマール美術館・カルマール/スウェーデン

Kalmar Museum・Kalmar

撮影 : 高見 晴恵

表紙デザイン : 大西 文子



転倒・転落事故防止の 意義と効果的対策

転倒・転落事故の実態と課題

[公益財団法人 大原記念労働科学研究所] 永田 久雄 4

高齢労働者の転倒災害未然防止：安全に働ける身体づくり

[愛知医科大学医学部] 川越 隆 10

全社挙げての転倒災害防止対策が支える
来店者・従業員ともに安全・安心な百貨店づくり
「生活と文化を結ぶ」を合言葉に地域とともに歩み続けて

[株式会社大丸松坂屋百貨店] 松坂屋上野店 16

転落防止対策に新体感・体験型安全教育の導入で
労働者の危険感受性向上をはかる

[金下建設株式会社] 萩原 淳 22

転倒、墜落・転落災害防止を
ビルメンテナンス業界の共通・共用の課題として

[公益社団法人東京ビルメンテナンス協会] 島田 良雄 26

転倒・転落予防と医療の質・患者安全の確保

[医療法人鉄蕉会 亀田総合病院] 高橋 静子 32

荒川ころばん体操 ご一緒にいかがですか？

[東京都荒川区健康部（保健所）健康推進課] 尾本 由美子 36

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 15 [見る・活動] (110)

仲尾 豊樹 口絵

Series

時評：労働科学

教員の長時間労働の現状が認められず！

熊本地裁判決を問う 藤川 伸治 40

労研アーカイブを読む (53)

問題解決手法と集団決定法 (グループ・ダイナミックス) 椎名 和仁 44

凡夫の安全衛生記 (39)

「抛り所がある」 規程・基準を示す 福成 雄三 48

Column

Between (3)

「水」について 高見 晴恵 51

Cinema

『パラサイト 半地下の家族』

アカデミー賞とカンヌ映画祭を制した「格差の不安」 小林 祥晃 52

Talk to Talk

寝覚めしが 肝付 邦憲 54

産業安全保健エキスパート®養成コース 56

労働科学のページ 62

次号予定・編集雑記 64



俯瞰 ふかん

転倒・転落等公務災害を防止し、 消防活動向上を支える職場環境の改善

中村 義彰

消防は、火災のみならず多種多様な災害から住民の生命と財産を保持するとともに、その被災の軽減を図ることを目的としていることから、災害発生時には迅速かつ適切な業務活動が求められます。その災害対応には多くの危険要素が存在するものの、活動する消防隊員（救急、救助隊員等も含む）の二次的な災害はあつてはならないことであり、通常業務の訓練時においても、その構築の重要性から安全対策には万全を期しています。特に、消防職場においても転倒・転落防止は安全対策の基本的なものと捉えられています。

災害時の消防活動は、概して119番通報の受信から緊張感が走る中で始まります。その勤務する庁舎から緊急出動する消防隊員の動線は、住民等の来訪者と交差することのないように設けられており、通路となる廊下や階段には滑りにくい床材を施しています。また、一昼夜閉ざすことのない職場であり災害に即時対応するため、消防隊員の待機施設として仮眠室があります。その施設においても、転倒防止を図るために足元間接照明等を施しています。訓練施設には転落事故防止のための安全ネットやマットを設け、個人装備においてもフルハーネス等の墜落制止用具の整備を図っています。施設や装備の安全対策を図る一方、災

害に対応する消防活動ははじめ通常業務の調査や検査、各種訓練に至る活動の安全対策についても、対策を講じ周知に努めてはいますが、消防隊員の転倒・転落を伴う事故、ヒヤリ・ハット事例は起きています。

例えば、火災現場で活動する消防隊員はヘルメット、防火衣、空気呼吸器等を身に着けて火勢等に一定の安全策を講じる一方、重量と視野の狭さというリスクを負います。このことから、延ばされた消防ホースや乱雑になっている現場での段差等につまずき転倒、出火建物の屋根上、階層上部へ入つての消防活動中による滑りや踏み抜き転落事故が発生することがあります。また、救急隊や救助隊においても同様であり、傷病者や救出者を担架搬送する際に足元視野が限られての転倒、このような事例は要救護者にも大変な影響を及ぼすことにもなりますので、最大限の安全策を講じなくてはなりません。つまずきや転倒、転落への小さなヒヤリ・ハットも無にすることのない検証が必要ではないでしょうか。

消防活動上の転倒・転落の事故事例の一部を紹介しましたが、これらの解消のためにはその活動を実践する消防隊員等の参加の下に、より良い安全対策が具体的かつ継続的に講じられていく体制とシステムの存在が求められます。越谷市の



なかむら よしあき
越谷市消防職員協議会執行委員会
相談役、元全国消防職員協議会事務局長

主な著書・論文
・「消防職場 職場改善事例集④」（共編）労働基準調査会、1995年
・「消防職場における休憩時間問題」（共著）「連合総研レポート」136号、2000年
・「消防職員の交替制勤務と仮眠環境の改善と整備」『労働の科学』70巻5号、2015年

消防職場では安全・衛生委員会や庁舎及び訓練施設等の建設計画時に設けられる検討委員会等にも消防隊員の参加や提言を可能にしています。また、当市消防職員の自主組織として「越谷市消防職員協議会」が設けられており、近年では労働安全衛生法第59条第3項の特別教育に基づく「墜落制止用具を用いる業務」の教育研修の場を開き、その充実に取り組んでいます。

これからの消防活動時の転倒・転落の防止はじめ、あらゆる危険に対する安全対策の向上に努めていきます。